

終了報告書<短期プログラム(3か月未満)用>

報告年月日 2017 年 10 月 1 日

留学プログラム名	協定校サマープログラム	
所属学院等 <small>(学院/類/学部/研究科)</small>	情報理工学院	
所属系・コース等 <small>(系・コース/学科/専攻)</small>	情報工学系 知能情報コース 修士2年	
留学先国	中華人民共和国	
留学先大学等	清華大学	
留学期間	プログラム期間:	2017年7月16日～2017年7月29日
	実際滞在期間:	2017年7月16日～2017年7月29日

報告書について

- 上記内容に加え、**下記の①～⑪の内容についても併せて**提出すること。別ファイルでも、この報告書の下に書き続けても構わない。ただし、①～⑪の各項目がわかるようにすること。また、公開してもよい写真がある場合は、①～⑪の各項目の中に貼付することが望ましい。
- 提出先:**各プログラム担当部署 (word ファイルで提出すること。)

報告事項

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

<清華大学について>

清華大学は、中国北京市海淀区(かいでんく)に位置する大学です。海淀区はアカデミックな施設が集まっており、近くに中国国内トップ大学の北京大学もあります。清華大学の英名は'Tsinghua University'で、普段 教師や学生は略称である'Tsinghua'と呼んでいます。

世界大学ランキング 2017-2018 において 30 位を獲得しています。特に工学に優れた大学で、US ニュース&ワールドレポートの大学ランキングでは、工学系の世界一位を獲得しています。

<Experiencing China – Tsinghua Summer School 2017>

このプログラムは毎年夏に他国の大学生(学士もしくは修士)向けに行われる 2 週間のサマースクールで、2016 年の夏より始まり、今年で 2 回目の開催です。約 40 か国から約 200 名の学生が参加します。参加者はテーマごとに 7 つのチーム(Architecture/Creative City/Education/Environment Challenges/Industry Frontier/Urbanization/Women)に分かれ、テーマに沿った講義やフィールドワーク、グループワークをし、最後に清華大学内で展覧会を行い成果発表をします。



② 留学前の準備

留学情報の入手方法、専門分野・語学の準備方法、留学先の研究室に所属した場合は、留学先大学の指導教員との準備、ビザ取得方法、住居の探し方など。

留学情報は、東工大のホームページの留学案内をこまめに見ており、そこから知りました。東工大からこのプログラムに参加するのは初めてのことであったので、留学情報館の方に何度か相談をさせていただいたり、清華大学のHPからこのプログラムの紹介ページを見たり、昨年の他国の参加者のレポートをネットで見たりして準備を進めました。また、参加が決まってからは、プログラム主催者側からパンフレットが送られてきたため、それを参考にしました。

ビザ取得に関しては、渡航期間が2週間なので必要はありませんでした。航空券はネットで直行便の中から時間と価格がちょうどいいものを購入しました。住居は、清華大学側が留学生寮を用意してくれたため探す必要はありませんでした。

④ 留学中の活動及び感想

通常の活動以外に行った活動がある場合は、併せて記入してください。

参加者はテーマごとに7つのチームに分かれて活動するのですが、私は'Industry Frontier'を選択しました。直訳すると「産業前線」なのですが、このチームでは、中国のテクノロジーの発展の実情を調査しました。主に取り扱った題材は「中国のベンチャー企業とベンチャーキャピタル」です。これを最終的に'Industry Analysis Report'として各グループ1つの冊子(50ページ程度)にまとめました。

講義では、清華大学の工学系の先生から、テクノロジーの発展の仕方、市民にどのようにテクノロジーが還元されているか、また、レポートを書くためのアイデアの発案法について学びました。フィールドワークでは、複数のベンチャーキャピタルに訪れたり、天津にあるスーパーコンピューターセンターに訪問したり(スーパーコンピュータの実物は見れませんでした)、テクノロジーが育つ現場を体感しました。2週間で講義とフィールドワークをしつつレポートを完成させるのはかなり大変で、毎日課題に追われていましたが、グループ作成した綺麗な一冊のレポートを手を持ったときは感動しました。

中国は、古くから知識や技術を共有することが良いものとされているようで、ベンチャーキャピタル等によってベンチャー企業が集って知識・技術を共有し発展することを、国として推進しているようです。文化背景が現在の政策に影響していることが面白いと思いましたし、技術者にとって良い環境だと感じました。

自分の専門に一番近いテーマであったため、活動内容自体が面白かったのはもちろん、専門用語でも知っている単語が多かったので、理解の助けになりました。



④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

他国の学生等との交流、海外における勉強・研究等の学校生活や日常生活を経験して、自身の成長を実感したことと思います。留学前に立てていた目標に対する達成度や苦労話など、何でも結構ですので、自身の成長を実感した中で一番記憶に残っているエピソードを記入して下さい。

英語を使って感情を表現できたことです。他の参加者の英語力は、ネイティブかほぼネイティブレベルだったので、会話には本当に苦労しました。言いたいことが伝わらなくて悔しくて悲しい思いをした日もありましたが、英語が下手で悩んでいることを打ち明けたら、意外にも多くの人に共感され、少し話しやすい空気になりました。

そしてプログラムの終盤、展覧会で展示するポスターをまとめているときに、グループメンバーの指示に納得ができず、ちょっと口論になったときに、「成長したなあ」と思い、記憶に残っています。



⑤ 留学費用

渡航費、プログラム参加費、生活費、住居費、保険料、奨学金の有無など。

プログラム参加費、生活費(大学内で使えるチャージ式学食パス 200 元が支給されました)、住居費は清華大学が負担してくれました。

自己負担分は計 10 万円程度で、内訳としては渡航費往復約 5 万円、保険料約 9 千円、学外での食費・お土産代合わせて約 3 万円でした。

⑥ 留学先での住居

住居(寮、ホームステイ等)、申し込み方法、ルームメイト、その他。

清華大学の留学生寮に2週間宿泊しました。特に申し込みなどは必要なく、プログラム参加者は全員留学生寮に宿泊しました。私はルームメイトはおらず完全に一人部屋でしたが、人によっては寝室のみ個室で、シャワー・トイレを共有する形式の相部屋の場合もありました。

部屋の設備は、シャワー・トイレ(シャワーとトイレは同じ空間にある)、ベッド、勉強机、電気ポット、クローゼット、小さな棚でした。人によっては簡単なキッチンが付いている場合もあるようです。

部屋は2日に1度清掃してもらえます。コインランドリーが各階に1つ、乾燥機が各棟に2つあり、それぞれチャージ式のランドリーパス(10回分で20元)を買って使用しました。

⑦ 留学先での語学状況

例えば、留学期間中は○○語を使用。留学前のTOEFL等語学試験は、○○だったが、十分であったなど。

英語を使用しました。清華大学側も全員英語が堪能でした。プログラム参加時の私のTOEICスコアは710で、意思疎通にはかなり苦労しました。英語でのコミュニケーションがこのプログラムで何よりも困難な部分でした。他のプログラム参加者は、ネイティブスピーカー・長期留学経験者・国の公用語に英語が含まれている人がほとんどで、日常的に英語を使っているため、彼らの話す英語はスピードが非常に早くかつ教科書的でない英語が多いです。しかし英語が堪能な分、こちらの英語の発音や文法が少しくらい崩れていてもある程度理解してくれます。何度も聞き直したり、簡単な言い回しに言い換えてもらったり、どうしても分からない部分はスマートフォンで翻訳したりして乗り切りました。

また、様々な国の人が参加するので、母国語を教えあう場面も多かったです。思いのほか日本に興味を持っている人が多く、日本語は人気でした。

⑧ 単位認定(互換)

留学中に取得した単位の認定(互換)を東工大で行ったか(行う予定か)。

このプログラムは、清華大学の単位として認められており、2単位分の成績がつきました。東工大では、「グローバル理工人研修アドバンスト1A」という科目の単位認定をしてもらう予定です。

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

就職後、海外向け製品のアイデアを考える際に役立てたいです。この2週間で中国すべてが知れたとは思っていませんが、工学分野に関して広く浅く学べたため、これから中国をより深く知る際にどんな部分に焦点をあてて調査したいかの足掛かりを得ることはできたと思っています。

また、他の参加者のこれまでとこれからの生き方への考え方に触れ、選択の幅の広さを感じました。他の参加者でエンジニア志望の学生から、自国にメーカーが2つしかなく、エンジニアになるためにはかなりの確率で国を出る必要があるという話を聞きました。日本は自分が考えている以上に国内になんでも揃っている国であることに気付きました。この豊かさにほとんど何の疑問も持っていませんでした。自国のことと自分の強みと希望を理解し、最善と思える生き方をしていきたいと思いました。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

通信環境に少し困りました。大学内では大学の提供する Wi-Fi が使えるのですが、通信状況はあまり快適ではなく、接続できなかつたり、接続できてもよく接続が切れたりしました。プログラム中、主催者側からの連絡は WeChat というチャットツールを介して伝えられるため、ネットに繋がらないことによる連絡ミスで困ったことが多々ありました。ポケット Wi-Fi やフリーSIM 携帯が用意できるなら事前に調べて持って行ったほうが良いと思います。

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

英語を使って何かを学ぶ経験がしてみたい方にぴったりだと思います。周りに日本人学生はほぼ居ない中、世界有数の大学で学び・生活するという素晴らしい環境です。

語学力が高いほうがプログラムをより楽しめるのはもちろんですが、語学力等々で大変なことがあっても2週間でちゃんと終わりが来るので、思い切って挑戦してみると、きっとかけがえのない経験になると思います。

